

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191500034		
法人名	有限会社さくら苑		
事業所名	グループホームさくら苑		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町仏ノ原甲1254-2		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年3月20日	外部評価確定日	平成26年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然や四季を、居ながらにして感じられる様に、窓を大きく取り、明るく開放的に保てるような施設作りを心掛けた。また、周りをバルコニーで囲み、いつでも戸外に居るような雰囲気味わえるような空間を設けている。緑あふれる中でゆったりと利用者様が過ごせるように、常に玄関前には季節の花を絶やさないようにしている。広い畑や花壇も確保し、草木や季節の野菜、果実、花など利用者様と育て、楽しめるような機会を作りたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

陶都有田町。町の郊外の小高い丘の上にあるグループホーム。自然に恵まれ静寂の中に佇んでいる。山を切り開いて整地された敷地には、外観に「木」をふんだんに使われた二ユニットのグループホームが玄関を中心に向かい合ったように建っている。両ユニット共、玄関への通路には、設えられた花壇にかわいい草花が咲きみだれている。それぞれの建物内部も、法人代表者が地元でかつて「民宿・宿泊所」を運営されていた影響で、ホーム床材には節目も鮮やかなフローリングが使用され、ディルムや廊下の天井には、梁の露出があり、堅固な建物の設計になっている。又、建物周囲がウッドデッキに囲まれていて、ディルムのガラス戸からそのまま外へ出入りできる。暖かく、天気の良い日には、テーブルや椅子を用意すれば十分に日光浴が楽しめる。高齢者の生活の場としてのコンセプトが揃っている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気くばり」「目くばり」「心くばり」を基本とし、心に優しい介護と、一人ひとりのあるがままを大切にしたい気持ちを忘れないように、職員は毎朝の唱和や事業所内の掲示により意識付けしている、また、ミーティング等で常に確認し利用者様を中心とした介護を共有している。	「気くばり」「目くばり」「心くばり」を基本とし、心に優しい介護と、一人ひとりのあるがままを大切にしたい気持ちを忘れないように、職員は毎朝の唱和や事業所内の掲示により意識付けしている、また、ミーティング等で常に確認し利用者様を中心とした介護を共有している。	「心」に優しい介護と一人ひとりのあるがままを大切に」を法人の理念としている。理念達成の為に「気くばり」「目くばり」「心くばり」を介護の基本として、毎朝のミーティングと申し送り時に唱和し、認識を確認し、スタッフで共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の時などには、地元のボランティアの方や保育園から慰問していただいたり、地域の行事や清掃活動にも積極的に参加し交流を心掛けている。	行事の時などには、地元のボランティアの方や保育園から慰問していただいたり、地域の行事や清掃活動にも積極的に参加し交流を心掛けている。	代表者が地元で長年居住し、近隣で「宅老所」を運営し、「回覧板」「区費」等の負担はしていない。ゴミステーションや地域の清掃活動には、スタッフを中心となって元気な入居者と共に参加している。今後、「回覧板」等を利用してホームの情報を地域に発信し交流を築くように検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会などで、認知症サポーター養成講座を開き、認知症の方の理解や支援の方法、対応の仕方などを伝え、地域の方たちと一緒に認知症の人を支える取組みをしている。	老人会などで、認知症サポーター養成講座を開き、認知症の方の理解や支援の方法、対応の仕方などを伝え、地域の方たちと一緒に認知症の人を支える取組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、家族や地区の老人会長、区長、民生委員、町の職員など幅広い立場の人に参加してもらい、ホームの活動や行事計画を報告したり、地域での事業所としての関わり方などを話し合い、地域に密着していく取組みをしている。	運営推進会議では、家族や地区の老人会長、区長、民生委員、町の職員など幅広い立場の人に参加してもらい、ホームの活動や行事計画を報告したり、地域での事業所としての関わり方などを話し合い、地域に密着していく取組みをしている。	「運営推進会議」のメンバーには、行政担当者、包括支援センター職員、地域代表者、家族代表者等登録して頂いている。議事は、ホームからの活動(結果・予定)報告、入居者の近況報告、質疑応答等が主である。二か月に一度開催し、議事録もファイルされている。今後、家族の方にも多く参加いただけるように日程の調整を検討する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者とは、ホームの運営方法などの相談をしたり、状況を報告したりなどの関係が築かれている。また、包括支援センターとは、居宅支援会議や研修会に参加したり、認知症サポーター養成講座を開催するなど、協力関係が築かれている。	町の担当者とは、ホームの運営方法などの相談をしたり、状況を報告したりなどの関係が築かれている。また、包括支援センターとは、居宅支援会議や研修会に参加したり、認知症サポーター養成講座を開催するなど、協力関係が築かれている。	町役場の担当者や包括支援センターの担当者には、「運営推進会議」に必ず出席して頂くようお願いしている。又、機会あるごとに訪問し、協力関係を築けるように日頃から取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する指針を作成し、外部研修に参加したり、社内研修会を開くなどして、基準や法令の正しい理解と、どのような事が拘束にあたるかなどを話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者様になるべく自由に暮らせるよう、さりげなく見守り、支えていくように取り組んでいる。	身体拘束に関する指針を作成し、外部研修に参加したり、社内研修会を開くなどして、基準や法令の正しい理解と、どのような事が拘束にあたるかなどを話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者様になるべく自由に暮らせるよう、さりげなく見守り、支えていくように取り組んでいる。	スタッフは、入居者への「身体拘束」のリスクを十分に理解しており、ホーム内・外の研修等参加し機会あるごとに認識を共有している。これまで「拘束」の実績はない。玄関等の施錠も最低限にとどめ、「目くばり」により、入居者が自由に過ごせるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所で高齢者虐待防止マニュアルを作成し、外部研修や社内勉強会を開き、虐待とはどういうものか、虐待を見逃していないか、通報の義務など、チェックシートで確認し、虐待の防止に努めている。	2014/4/24		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの担当者との話し合い、成年後見人の申し立てを行った利用者様がおられる。利用者様と制度について共に理解をしながら活用の支援を行った。	包括支援センターの担当者との話し合い、成年後見人の申し立てを行った利用者様がおられる。利用者様と制度について共に理解をしながら活用の支援を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書には相談窓口、担当者を明記している。	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書には相談窓口、担当者を明記している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の声には常に耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている。介護相談員を受け入れたり、玄関にはご意見箱を設置している。家族会やアンケート、家族とのカンファレンスを行うなど、家族や利用者の意見を表せる場を設けるように努めている。	利用者様や家族の声には常に耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている。介護相談員を受け入れたり、玄関にはご意見箱を設置している。家族会やアンケート、家族とのカンファレンスを行うなど、家族や利用者の意見を表せる場を設けるように努めている。	両ユニットの玄関には目につきやすい場所に、小さいながらも「意見箱」を置き、筆記用具も用意して、入居者・家族からの意見、提案を受け入れ易いようにしている。又、「運営推進会議」や「サービス担当者会議」等への積極的な参加も常に呼びかけ、発言を促している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	役員会議、常勤会議、各ユニット会議、夜勤会議、給食会議、全体合同会議など、様々な立場の意見や提案を聞く機会を設けている。代表と管理者は全てに参加し運営の改善に努めている。又、個人面談を行うなど意見を出しやすい環境にも配慮している	役員会議、常勤会議、各ユニット会議、夜勤会議、給食会議、全体合同会議など、様々な立場の意見や提案を聞く機会を設けている。代表と管理者は全てに参加し運営の改善に努めている。又、個人面談を行うなど意見を出しやすい環境にも配慮している	スタッフの担当部署毎の各種会議には、必ず管理者が同席し、スタッフ全体会議には、代表者も参加して、スタッフの業務に関わる意見、提案を採り上げるようにしている。又、懇親会の席上で出た意見、提案でも業務に反映させる配慮をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境・条件などを話し合う機会を設けている。	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境・条件などを話し合う機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修会では、職員がテーマを決め勉強会や事例発表会を開催している。外部研修会や講演会が開催されるときには案内を出し参加を呼び掛けている。研修や資格試験の時は勤務時間の調整をしている。	毎月の社内研修会では、職員がテーマを決め勉強会や事例発表会を開催している。外部研修会や講演会が開催されるときには案内を出し参加を呼び掛けている。研修や資格試験の時は勤務時間の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、毎月、地域密着サービス連携会議を開き、意見交換会や事例検討会、事例発表会等を行い良い協力関係を築いている。職員は自由に参加ができ、交流を深め、相互のサービスの質の向上に努めている。	地域の同業者とは、毎月、地域密着サービス連携会議を開き、意見交換会や事例検討会、事例発表会等を行い良い協力関係を築いている。職員は自由に参加ができ、交流を深め、相互のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と、お話をする時間を大切に、本人が不安な気持ちにならないように、利用者様のニーズにしっかりと耳を傾け、理解を深め、信頼される関係づくりに努めている。	利用者様と、お話をする時間を大切に、本人が不安な気持ちにならないように、利用者様のニーズにしっかりと耳を傾け、理解を深め、信頼される関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時には、ご家族と丹念に話し合い、ご家族が安心して頂くように、会議等でも十分に話し合い、信頼を築くように努めている。	サービス開始時には、ご家族と丹念に話し合い、ご家族が安心して頂くように、会議等でも十分に話し合い、信頼を築くように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時には、管理者、ケアマネジャー、看護師など様々な立場から、家族や本人にとって何が必要かを話し合い、その時に応じたサービスの検討をしている。	サービス開始時には、管理者、ケアマネジャー、看護師など様々な立場から、家族や本人にとって何が必要かを話し合い、その時に応じたサービスの検討をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の営みを大切に、一緒に暮らしていく中で、共に生活していく環境作りに努めている。	本人の営みを大切に、一緒に暮らしていく中で、共に生活していく環境作りに努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、常に本人の状況を報告し、面会や外泊の時などには、家族がスムーズに対応できるように支援している。	家族には、常に本人の状況を報告し、面会や外泊の時などには、家族がスムーズに対応できるように支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段から、利用者様との話の中から、生活歴などを把握し、本人が、以前暮らしていた場所を訪問したり、馴染みの店で買い物をするなど、又、家族や知人に、葉書や年賀状などを送る支援をしている。	普段から、利用者様との話の中から、生活歴などを把握し、本人が、以前暮らしていた場所を訪問したり、馴染みの店で買い物をするなど、又、家族や知人に、葉書や年賀状などを送る支援をしている。	利用者・家族が入居を希望され、入居契約に至るまで、および入居されて入居者ご本人が落ち着かれるまでの期間、管理者・スタッフは出来る限り入居者が住まわれていた旧宅、そしてその周辺を訪問する機会を作るようにしている。かつての「馴染みの店」を訪れる事により、関係が途切れない支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題などを常に考え、皆で話題を選び、共に支え合える喜びを、一緒に楽しめるような支援作りに努めている。又、皆様が楽しめるように、一人ひとりに合わせたレクリエーション等の支援に努めている。	共通の話題などを常に考え、皆で話題を選び、共に支え合える喜びを、一緒に楽しめるような支援作りに努めている。又、皆様が楽しめるように、一人ひとりに合わせたレクリエーション等の支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、これで終わりではなく、お見舞いに行ったり、カンファレンスに参加するなど、いつでも相談や支援が出来る関係を保つようになっている。	サービス終了時には、これで終わりではなく、お見舞いに行ったり、カンファレンスに参加するなど、いつでも相談や支援が出来る関係を保つようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の意向に添えるように、出来るだけ話を聞き、本人が望まれる生活が出来るように努めている。	利用者様の意向に添えるように、出来るだけ話を聞き、本人が望まれる生活が出来るように努めている。	入居者の毎日の生活のリズムがゆったり流れていけるように努めている。スタッフも入居者とゆっくりお話しできる時間を確保しており、入居者の意向・思いを十分に把握している。困難な入居者については、家族の協力を得ながら入居者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人と、家族様、又は、関係者より話を聞き、利用者様の生活歴、生活環境の把握に努めている。	利用者様本人と、家族様、又は、関係者より話を聞き、利用者様の生活歴、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の体調不良の訴えや、精神的不安の訴え時は、気持ちに寄り添えるように、傾聴するよう心がけている。	利用者様の体調不良の訴えや、精神的不安の訴え時は、気持ちに寄り添えるように、傾聴するよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング評価により、利用者やご家族の意見を聞き、モニタリングの内容をふまえ、毎月の管理者、ケアマネ、看護師、ケアスタッフでのケース会議で意見を出し合い介護計画を作成している。	定期的なモニタリング評価により、利用者やご家族の意見を聞き、モニタリングの内容をふまえ、毎月の管理者、ケアマネ、看護師、ケアスタッフでのケース会議で意見を出し合い介護計画を作成している。	居室の担当者は介護計画の見直しに際してモニタリングを実施する。その評価を踏まえて作成担当者が「原案」を作成し、サービス担当者会議により入居者・家族の意見を求めつつ、スタッフ全体会議により現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそって、利用者一人ひとり日々の様子や身体状況を個別に記録し、スタッフが常の把握出来るようにしている。	介護計画にそって、利用者一人ひとり日々の様子や身体状況を個別に記録し、スタッフが常の把握出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別支援の考えを大切にしながら、ニーズの変化に対応して、速やかに対応できるように取り組んでいる。	個別支援の考えを大切にしながら、ニーズの変化に対応して、速やかに対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動を把握し、苑での行事へ定期的に取り入れ、楽しむことができるように支援している。	地域のボランティア活動を把握し、苑での行事へ定期的に取り入れ、楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も主治医の変更はせずに、これまでの様に主治医の受診、往診が安心して出来るように支援している。	入所後も主治医の変更はせずに、これまでの様に主治医の受診、往診が安心して出来るように支援している。	かかりつけ医による受診は、入居後も従来の医療機関に、入居者・家族の希望が無い限り変更はしない。協力医の往診と同じく従来のかかりつけ医の往診も受けている。受診は原則家族の送迎ではあるが、無理な時はホームで支援をする。受診に関する家族との意思の疎通を大切にしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常に状態の変化など報告により要観察、再検、受診など必要な対応が出来るようにしている	日常に状態の変化など報告により要観察、再検、受診など必要な対応が出来るようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、主治医や医療機関との連携で迅速に対応している。又、退院後の生活がスムーズにいこう医療関係との話し合いの場を設けている。	入院時は、かかりつけ医や医療機関との連携で迅速に対応している。又、退院後の生活がスムーズにいこう医療関係との話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、早い段階から重度化した場合についての話し合いの場を設け、本人や家族の要望にそった今後に向けての方針を、ご家族、かかりつけ医と共有できるようにしている。ホームで出来る事、出来ない事を説明し、状況に応じて段階的に話し合い方針を決めるようにしている。	家族とは、早い段階から重度化した場合についての話し合いの場を設け、本人や家族の要望にそった今後に向けての方針を、ご家族、かかりつけ医と共有できるようにしている。ホームで出来る事、出来ない事を説明し、状況に応じて段階的に話し合い方針を決めるようにしている。	「入居契約」時に入居者・家族と「重度化や終末期に向けた方針」について説明、十分に話し合い理解を得ている。また、その状態に陥った時に、協力医・かかりつけ医の協力を得ながら、家族の希望に沿って、看護師・スタッフ等関係者とチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や、事故発生時などの対応を検討し、会議などで確認している。又、消防署より救急救命士の方に来苑していただき、救急救命の講習を行ったり、心肺蘇生の外部研修に参加するなど、定期的に訓練を行っている。	緊急時や、事故発生時などの対応を検討し、会議などで確認している。又、消防署より救急救命士の方に来苑していただき、救急救命の講習を行ったり、心肺蘇生の外部研修に参加するなど、定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いのもと、全職員が参加して年に2回の避難・消火・通報訓練を行っている。1回は夜の時間帯での訓練を行うなど、様々な想定で訓練を行っている。又、近隣の方をお願いして協力を得られる体制を整えている。	消防署の立会いのもと、全職員が参加して年に2回の避難・消火・通報訓練を行っている。1回は夜の時間帯での訓練を行うなど、様々な想定で訓練を行っている。又、近隣の方をお願いして協力を得られる体制を整えている。	火災に対する訓練は、年二回実施し記録も残してある。内一度は消防署立ち会いのもと「総合訓練」としている。また、夜間想定での訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、ゆっくり丁寧な言葉使いに心がけている。個人情報、プライバシー保護は入所の際、説明と同意を得ている。また、その都度、利用者様と家族に確認をしプライバシーや尊厳を損ねないように心がけている。	常に、ゆっくり丁寧な言葉使いに心がけている。個人情報、プライバシー保護は入所の際、説明と同意を得ている。また、その都度、利用者様と家族に確認をしプライバシーや尊厳を損ねないように心がけている。	スタッフは、入居者の「人格の尊重」「プライバシーの確保」「権利の擁護」の大切さについて十分理解している。スタッフ間の勉強会でも「言葉かけ」や「介助・対応」について、管理者も含めて話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のお話には出来る限り聞くように心がけている。また、利用者様中心のケアをし、ご希望に添った支援を心がけている。	本人のお話には出来る限り聞くように心がけている。また、利用者様中心のケアをし、ご希望に添った支援を心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の介護度、認知度により、無理なく安全で、あるがまま、希望に添える支援をしている。	ご本人の介護度、認知度により、無理なく安全で、あるがまま、希望に添える支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを聞き服を買ったり、レクや行事の時はネイルや化粧をし、オシャレを楽しんでいただけるように、取り組んでいる。	ご本人の好みを聞き服を買ったり、レクや行事の時はネイルや化粧をし、オシャレを楽しんでいただけるように、取り組んでいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、職員と一緒に野菜の下ごしらえや、後片付けなどを自然と手伝えるように支援している。又、職員が利用者と一緒に同じ物を食べ、利用者と一緒に楽しみながら食事をしている。窓から見える畑からは季節の野菜が採れ、楽しみにもなっている。	利用者の能力に合わせて、職員と一緒に野菜の下ごしらえや、後片付けなどを自然と手伝えるように支援している。又、職員が利用者と一緒に同じ物を食べ、利用者と一緒に楽しみながら食事をしている。窓から見える畑からは季節の野菜が採れ、楽しみにもなっている。	入居者の食事の時間が一層楽しく、和やかな時間となるように、昼食はスタッフもともにテーブルを囲み、入居者と同じメニューを頂いている。特に、下膳、食器洗いは出来る入居者が自発的に動いておられる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月給食会議を行い、食事の量、食べやすい大きさ、栄養バランス、水分の量などを検討し、一人ひとりの状態に応じた食事の提供に努めている。	毎月給食会議を行い、食事の量、食べやすい大きさ、栄養バランス、水分の量などを検討し、一人ひとりの状態に応じた食事の提供に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じた声掛け、一部介助、全介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、必要に応じ歯科医師の往診による指導を受けてたり、口腔ケア研修会に参加するなど、口腔ケアの大切さも重視している。	毎食後、一人ひとりの状態に応じた声掛け、一部介助、全介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。又、必要に応じ歯科医師の往診による指導を受けてたり、口腔ケア研修会に参加するなど、口腔ケアの大切さも重視している。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の生活リズムを把握し、プライバシーに配慮した声かけや、対応に心がけている。又、自立での排泄する支援に努め、おむつから布パンツへ戻す支援も行っている。	本人の生活リズムを把握し、プライバシーに配慮した声かけや、対応に心がけている。又、自立での排泄する支援に努め、おむつから布パンツへ戻す支援も行っている。	「排泄チェック表」を用いて入居者の排泄パターンを把握して、表出の困難な入居者には丁寧に誘導する事により自立への支援を行っている。また、夜間オムツが必要と思われる入居者も根気よく誘導する事により排泄の自立への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の状態によっては、主治医や看護師と相談し服薬の調整も行っているが、食事の工夫や、水分摂取、運動や歩行訓練など、自然に排便ができるように支援している。	利用者の状態によっては、主治医や看護師と相談し服薬の調整も行っているが、食事の工夫や、水分摂取、運動や歩行訓練など、自然に排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、両ユニットのどちらかで入浴が出来るようにし、安全に配慮し昼間にはなるが、なるべく希望に添えるよう支援している。又、一人ひとりへの状態に応じたプライバシーに配慮した介助や、自立に向けた介助を心がけている。	毎日、両ユニットのどちらかで入浴が出来るようにし、安全に配慮し昼間にはなるが、なるべく希望に添えるよう支援している。又、一人ひとりへの状態に応じたプライバシーに配慮した介助や、自立に向けた介助を心がけている。	衛生面から入居者の入浴は、原則「二日に一度」のペースを守っている。ユニットでそれぞれ浴室の準備は整えるので、仮に体調や希望により入浴出来ない日の翌日には入浴出来る体制にあり、個々に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、希望により昼寝や、休息の支援を行っている。夜間は安心して眠れるように、言葉かけや環境に配慮し、服薬をしなくても気持ちよく休まれるような支援を心がけている。	一人ひとりの生活習慣を把握し、希望により昼寝や、休息の支援を行っている。夜間は安心して眠れるように、言葉かけや環境に配慮し、服薬をしなくても気持ちよく休まれるような支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報は個人ケースにファイルして職員がいつも確認できるようにしている。主治医、看護師と常に意思交換し本人に合わせた薬の調整を行っている。初めて服用される薬は、医師に状態を報告しながら慎重に対応している。	服薬の情報は個人ケースにファイルして職員がいつも確認できるようにしている。主治医、看護師と常に意思交換し本人に合わせた薬の調整を行っている。初めて服用される薬は、医師に状態を報告しながら慎重に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、個々の能力に合わせた役割を見つけ、役割を持つことで張り合いのある生活が送れるように支援している。又、地域のボランティアを積極的に受け入れ一緒に楽しむなどの支援もしている。	日々の生活の中で、個々の能力に合わせた役割を見つけ、役割を持つことで張り合いのある生活が送れるように支援している。又、地域のボランティアを積極的に受け入れ一緒に楽しむなどの支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には、畑を散歩したり、ユニット間やデイサービスを訪ねたり、希望に添って、買い物や外食、季節に応じた花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。又、外出できない季節などは、出張喫茶ボランティアに来てもらい外食をしているような雰囲気を楽しんでもらっている。	気候の良い日には、畑を散歩したり、ユニット間やデイサービスを訪ねたり、希望に添って、買い物や外食、季節に応じた花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。又、外出できない季節などは、出張喫茶ボランティアに来てもらい外食をしているような雰囲気を楽しんでもらっている。	建物の周囲がウッドデッキに囲まれていて、暖かく天気の良い日には自由に室外へ出て日光浴を楽しむ事ができる。又、敷地内には、花壇、畑も用意されていて、園芸や農作業をスタッフと共に楽しむ事も出来る。容易に外出が出来ない時は、時に「出張喫茶ボランティア」を利用し、外食の気分を味わう事もできる。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば少額のお金を所持されている利用者様もおられる。外出した時には買い物やされたり、移動バン屋さんに来られた時などは、自分のお金で支払いをしてもらうように支援をしている。	希望があれば少額のお金を所持されている利用者様もおられる。外出した時には買い物やされたり、移動バン屋さんに来られた時などは、自分のお金で支払いをしてもらうように支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に協力してもらい、本人が電話をしたい時に出来るよう支援している。また、年賀状や手紙などを送る支援をしている。また、携帯電話を持たれている利用者様もおられ、自由に電話をされている。	家族に協力してもらい、本人が電話をしたい時に出来るよう支援している。また、年賀状や手紙などを送る支援をしている。また、携帯電話を持たれている利用者様もおられ、自由に電話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、不快にならないように毎日掃除したり、生活や季節に合ったちぎり絵や、貼り絵などを、利用者様と一緒に作成し飾りつけをしている。又、ホールは木の温もりがあり、窓を広く設け、自然の光を多く取り入れたり、草花を見て季節を感じられるようにしている。	共用の空間は、不快にならないように毎日掃除したり、生活や季節に合ったちぎり絵や、貼り絵などを、利用者様と一緒に作成し飾りつけをしている。又、ホールは木の温もりがあり、窓を広く設け、自然の光を多く取り入れたり、草花を見て季節を感じられるようにしている。	両ユニット共に共用空間は、全体に落ち着きを感じられる。天井は、さほど高くないが、廊下に出ているやや大きめの梁に重量感があり、床材には「節目」が鮮やかな木地がそのまま使用されており、居心地良い工夫がされている。畳の部屋には「糺飾り」が置かれていたり、季節感への配慮もなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内は、ソファーや和室があり、ソファーでテレビを見られたり疲れたら和室で休まれるようにしている。天気の良い日には、テラスへ出て歌を唄ったり、おやつを食べたりして頂いている。	ホール内は、ソファーや和室があり、ソファーでテレビを見られたり疲れたら和室で休まれるようにしている。天気の良い日には、テラスへ出て歌を唄ったり、おやつを食べたりして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使われ、自分で塗られたカレンダーを貼ったり、家族の写真を飾ったりされている。テーブルや家具、テレビなどを持ち込まれている利用者もおられ、本人が安心して暮らせるような支援をしている。	居室は自由に使われ、自分で塗られたカレンダーを貼ったり、家族の写真を飾ったりされている。テーブルや家具、テレビなどを持ち込まれている利用者もおられ、本人が安心して暮らせるような支援をしている。	利用者・家族による入居前の見学の折、「入居されたら部屋は使い慣れた物で満たして頂く」ように説明し、入居後に改めて家族に「使い慣れた物」を持って来て頂くようお願いしている。しかし、まだ十分とは言えないので、今後入居契約で訪問時をお願いする事を検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月、職員と利用者様が協力しカレンダーを作成したり、書道や絵、個人の得意分野に分かれ作業をしていただいている。また、調理の手伝いや、洗濯物など「できること」を活かした取り組みをしている。	毎月、職員と利用者様が協力しカレンダーを作成したり、書道や絵、個人の得意分野に分かれ作業をしていただいている。また、調理の手伝いや、洗濯物など「できること」を活かした取り組みをしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	2014/4/24	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない